

## 中学2年生～3年生 探究学習の時間 学習指導案

株式会社アワーズ  
(アドベンチャーワールド)  
中尾建子

### 1. 単元名

「ゴミは悪者なのか？身の回りから世界を考える」

### 2. 対象

白浜町内の中学校（白浜中・富田中・日置中・三舞中）2年生  
3年次で全体発表

### 3. 単元の目標

- ①ゴミに関する現状や課題を、多くの資料から必要な情報を探し出し読み解く力を、養成することができる。ICTを活用して、簡潔に分かりやすくまとめることができる。  
体験や学習を通じて多角的な物事の見方を養成し、自分(たち)の理解を深めることができる。 (知識・技能)
- ②学習した内容を踏まえて自由な発想で考える(ゴミの違う名前を考える)ことができる。  
世界で起こっていることが、自分達の生活と無関係でないことを理解し、自分達は何をしたいか、するべきか広い視野で考えることができる。  
発表時期や対象者を事前に共有して、だれに何を伝えるのか明確にして、内容や表現方法を考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ③自分の意見を持つ、人の意見を素直に聞く姿勢を持ち、チームで考えをまとめることができる。  
学習内容を白浜町や町民へ提言することで、中学生でも社会の構成員で社会課題に取り組むことができ、自信と誇りを持つことができる。 (主体的に学習に取り組む姿勢)

### 4. 単元について

#### (1) 教材観

- ①白浜町内の4つの中学校の合同テーマでのプログラムのため、他の学校の生徒とのつながりを構築できる教材である。2年生での学習の成果を3年生で発表するため、学年を越えての長期にわたる学習になり思考を深めるのに適した教材である。
- ②身近な問題であるゴミ問題、ゴミ=汚い・臭いの悪者扱いから脱却させるため、調査や聞き取りなどを経て、多角的な物事の見方や理解を深めることができる教材である。
- ③自治体や国から出されている報告書を読み解く力を養成するのに適した教材である。
- ④発表の期日や場所を最初より提示し明確なゴールイメージを持ち、計画的に学習を進めることができる教材である。  
6月 白浜町ゴミと環境フェア  
8月 白浜中学生議会
- ⑤ゴミに視点を向けることから、以下のような複数教科にわたって、共通して取り組むことができる教材である。

### 【学習指導要領における「環境教育」に関わる内容】

社会) 自然環境が地域の人々の生活や産業と関係を持っていること  
持続可能な社会の構築のため、地域における環境保全の取り組みの大切さ  
持続可能な社会の形成の視点から解決すべき課題の探究  
理科) 持続可能な社会をつくることの重要性の認識  
自然環境保全の重要性の認識  
保健体育) 環境の保全に十分配慮した廃棄物の処理の必要性  
技術・家庭) 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、  
環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること  
総合) 学校の実態に応じて横断的・総合的な課題についての学習活動

引用：文部科学省 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shisetu/013/003/shiryo/attach/1299713.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/013/003/shiryo/attach/1299713.htm)

## (2) 生徒観

- ①豊かな生活をしている日本において、日々沢山のものを捨てるのが当然のように感じている。
- ②世界で起こっていることが、自分達とのつながりがないように感じている。
- ③中学生はまだ子供であり、社会課題を解決できるのは大人の役割であると感じている。

## (3) 指導観

- ①学校や班での学習であることを踏まえ学習ルールを決めさせて、IoTの活用などを積極的に行い全員参加型の学習にする。
- ②生徒の主体性を養成させるため、調査や聞き取りなどの交渉は自分達で行うように指導する。
- ③白浜町内の4つの学校の共通テーマとして取り組み、他の学校・班・個人の学習内容や考えの共通点や違いに気付かせる。
- ④白浜町長及び町民に向けて自分達の考えを発表する場を設け、学習へのモチベーションの維持と中学生でも社会の課題に取り組むことができる誇りと自信へつなげさせたい。

## (4) ESDとの関連

### ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・ゴミの種類が多さ、そもそもゴミとは何か？

自分達が出すゴミは他の国や地球にも影響している

有限性・物を大切にする、日本が誇るもったいない文化、解決法を安易に3Rで済まさない。物は有限であるので使わないという選択をする

連携性・学校内、白浜町内の中学校連携、白浜町をという地域での解決策考える。巻き込む

責任性・自分達は地球上の1生命体であるので、地球を使うことへの責任をもつ

### ・本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力

ゴミって何？ ゴミ＝汚い・臭いイメージだが本当はそうなのか？

人間がゴミという概念を作り上げた。本来は循環して再利用できるはず

### 未来像を予想して計画を立てる力

過去・現在のことを知り、このままの生活をしていけば地球はどうなるのか想像する  
多面的・総合的に考える力

自分の目の前の問題がなくなったら、問題が解決していると思う錯覚  
地球(もしかしたら宇宙にも)、他の国、動物たちにも影響していることへの正しい  
理解と認識

自分たちの行動が世界に影響を及ぼしている(バタフライエフェクト)

### 他者と協力をする態度

学習するにあたり色々方の意見を聞き、自分の意見とのすり合わせをする  
課題解決には自分だけではできないので、皆を巻き込むことが必要

## ・本学習で変容を促すE S Dの価値観

### 世代間・世代内の公正を意識できる

今の行動が今だけでなく将来に影響する。皆を巻き込み行動することが重要。

### 自然環境、生態系の保全を重視する

人間だけが地球上に生きていくわけではない、多様な生命体の繋がりの中で生活でき  
ている。100年後も色々な動物と生きていきたいね。

## ・達成が期待されるSDG s

3. 健康・福祉 4. 教育 7. エネルギー 11. まちづくり 12. 生産と消費  
13. 気候変動 14. 海洋資源 15. 陸上資源 17. パートナーシップ

## 5. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ主体的に学習に取り組む態度
①資料を捜す力、読み解く力と簡潔にまとめる力をもっている。 ②多角的に物事を見て、理解を深めている。 ③ICTを活用して、簡潔に分かりやすくまとめることができる。	①学習した内容を踏まえて自由に発想している ②世界で起こっていることが自分達の生活と関係していると理解している。 ③だれに何を伝えるのか明確にして内容や表現方法を考えている。	①自分の意見を持つ・人の意見を素直に聞く姿勢を持ち、チームで考えをまとめようとしている。 ②社会の構成員として社会課題に取り組む姿勢を持とうとしている。

6. 単元の指導計画 (全21時間)

	学習活動	○学習への支援	○評価・備考
1	<b>A. ゴミって何者? ・・学校共通</b> ①グランドルールの説明 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自分の意見を発表する</li> <li>■人の話を最後まで聞く</li> <li>■否定しない</li> <li>■発表の後は拍手 (感謝・尊敬)</li> </ul> </div> ②ゴミのイメージをKJ法でできるだけ多く出す。班で集約して発表 ③どんなところにゴミがあるか話し合う	①生徒全員が主体的な学びができるように、グループ分けをして、ICT(Jambord) を活用させる ②各ワークの結果は教室に掲示し、他のグループの意見も参考にさせる。	イ-① ウ-①
2 ～ 4	<b>B. ゴミ検索隊Part I ・・学校共通</b> (学校のゴミの回収・調査・分類) ①白浜町のゴミ分別方法を調べる ⇒今回調査するゴミの分別確定 ②分別後のゴミの適切な比率の求め方を知る (重量比・容積比・個数比) ⇒効果的は比率の求め方 ③学校のゴミの回収・分別・調査 班で実施し、最終的には学校毎で集約比率は、重量比・容積比・個数比それぞれで出して、今後の調査で採用する方法を決める。 ④学校のゴミの調査・分析結果をまとめ発表 ⑤発表内容を各学校に共有	①まずは自宅でのゴミの分別を思い出させる ⇒白浜町資源ゴミ分別冊子を資料として与え参考にさせる。 ②比率の考え方の支援(数学的思考) どの比率で発表するのがいいかを既習事項の中から選ばせる ③生徒の人数により分別する範囲を先生側で決める。但しバランスを考慮し、時間内で完了できるように、事前計画をださせる ④⑤ ICT(Jambord) を活用 発表内容はJambordでまとめさせる。 ⑤他の学校の内容も教室に掲示し、多様な意見があることを理解させる。	ア-①②③ イ-③ ウ-①
5	<b>C. 日本のゴミの状況を知る ・・学校共通</b> ①公的機関が発行している資料に基づき内容を理解 ②ゴミの分別や処理について 1Pでまとめる (生徒数が多い場合は班分け)	①資料を捜す能力と読み解く力を養成させるために、参考資料を提示する。 特に、2点の理解ができるようにする。生活系のゴミが71%、ゴミの80%は焼却参考) ・一般廃棄物の排出及び処理状況等 (環境省) ・和歌山県廃棄物処理計画	ア-①② イ-③ ウ-①
6 ～ 9	<b>D. ゴミの処分方法を知る ・・学校共通</b> ①白浜町清掃センター見学・調査 ②町内のゴミの処分方法、燃えるゴミ・資源ゴミの違いを知る ③これまでの学習を通じた疑問点などを担当者と議論	①見学の交渉を生徒に行わせ、先生は見学交渉のサポートをする。 ③議論を深めるために、生徒に事前に質問を考えさせる 特にBやCの学習結果を踏まえ 担当者と議論できる素地を形成させる	ア-② イ-②③ ウ-①②

10 ～ 15	<b>E. ゴミ捜索隊PartⅡ・学校別・合同発表</b> ①学校別でのゴミ調査（午前中） ・富田中：川 +テーマパーク（アドベンチャーワールド） ・白浜中：海 ・日置中：漁港 ・三舞中：川 ②ゴミ回収・分別 分別比率はBの学習で決めた方法 ③ゴミの調査・分析結果をまとめ学校内で発表 ④発表内容を各学校に共有 4校合同オンライン発表会と意見交換会	①なぜそれぞれの場所の調査をするのか理解させる。（地域や場所によるゴミの種類や特徴などの違いを知る） ②③ Bの学習に沿って指導する ③④ ICT(Jambord) を活用 発表内容はJambordをでまとめさせる ⑤学校毎に発表させ、地域や場所によるゴミの種類や量の違いなどを4校の発表を基に考えさせる	ア-②③ イ-③ ウ-①
16 ～ 18	<b>F. 自分ごと化・・・学校共通</b> ①昔はゴミ問題はなかったのか？ 昔のゴミの量や処分方法 ⇒白浜生活学校などゴミ問題に関心のあるゲストスピーカーとの対話 ②このままゴミを出し続けたらどうなるだろう？ ⇒一番困っているのは誰か考える。 ③テーマである「ゴミは悪者なのか」について ⇒ゴミの別の呼び名を考える ④自分ごと化 自分たちはゴミを減らすために何をやっているか？（行動） 地域でどんなことをやっていきたいか（提言）	①基本的には生徒からの質問形式として、対話の中で疑問を解決できるようにさせる。指導者は、ときに問いを出して、対話が進むように支援する。 ②身の回りや地域だけでなく、広い視野で考えさせる 日本⇒世界⇒自然・地球 参考) ゴミの山で生活する人々の暮らし 海の動物やプラスチックを食べて苦しんでいる動物の写真等 ③ゴミ=汚い・臭い(悪者)のイメージから脱却できるような、呼び名を考えさせる。 ④ゴミは人間活動から出たものであることへの理解をさせる。 答えが3Rにとどまらないように、呼び名から考えられるようにさせる。 学校、地域単位で活動できる施策を提言させる。	ア-①②③ イ-①②③ ウ-①②
19 ～ 21	<b>D. まとめ・・・学校共通</b> ①学習テーマ「ゴミは悪者なのか？身の回りから世界を考える」に基づき、これまでの内容のまとめをする。 ②発表 各学校で実施 ポスター・チラシ掲示ができるようにまとめる	①行動・提言は必ず入れさせる。 最終的には白浜町、町民への発表を視野に入れてまとめさせる。 ②伝えるべき相手を決め、効果的な方法を考えさせる	ア-①②③ イ-①②③ ウ-①②
	<b>E. 地域での発表・・・学校合同(3年生)</b> ①6月 白浜町ゴミと環境フェア ②8月 白浜中学生議会	生徒が使命感と達成感を持って発表できるようにさせる	イ-③ ウ-②